

『国富論』刊行 200 年記念行事一覧

昨年より本年にかけて、『国富論』刊行 200 年を記念して、国の内外を問わず、各地で、種々の記念行事が企画された。

経済資料協議会では、わが国で行われたこれらの各種記念行事の情報を収集、整理する必要を感じ、これを企画した。以下は、可能な限り収集したものをとりまとめたものである。

また、海外の主要誌に掲載された記念論文一覧を付すことにより、斯学研究者の便をもちかった。

なお、これらの作業にあたっては、国内については、関西大学の平松系一郎氏に、また国外については、京都大学の細川元雄氏の両氏にお忙しい中をご無理なお願いをした。ここにその労に對し記して謝意を表する次第である。（編集委員会）

わが国における『国富論』刊行 200 年記念行事

平 松 系一郎^{*}

『国富論』刊行 200 年を記念する国内諸行事の掲載については、次のとおりの構成をもってした。

- 4) 目 録
- 5) その他

I 記念講演会

- 1 協議会、学会（学際的）
- 2 大学（地区別および地区別内 ABC 順排列）

II 記念展示会

（I とおなじ）

III 出版物（各項内 ABC 順排列）

- 1 著 作
- 2 関係文献
 - 1) 単行書
 - 2) 雑 誌
 - 3) 新聞記事

I, II については諸団体、大学に対する照会により把握したものであるが、照会先の限定（たとえば大学の場合、経済学部ないし経済学科設置校に限った）が、綜合思想家としてのスミスの大にたいする世上の追頌を多く看過したのではないかとおそれる。

III についても脱落にたいする懸念は同様であるが、この場合、とくに採録の基準に苦慮した。すなわち 1976 年 1 月以降刊行されたスミスに関する諸図書・雑誌論文のいずれが、「国富論」

^{*} ひらまつ けいいちろう 関西大学経商資料室

刊行 200 年記念を動機または目的として執筆されたものであるか判定しがたく、標題明記の他、文中何らかの形でそれに触れたもののみを採録したこと、さらにまた明らかに当該記念のために執筆されたもの（たとえば諸大学内新聞記事等）であるにかかわらずその不偏的収集の困難を予想してこれを採録範囲外としたことなど、実を失うことではなかったかをおそれるものであり、とくに後者のかたがたにはお詫び申し上げたい。

このような不備にもかかわらず、ともかくも以下の形をなしたことは、甲南大学杉原四郎先生のご教示をはじめとし、編者所属大学経済・商学両学部諸先生、協議会加盟大学研究所および学部資料室諸氏のご助力、ならびに当方の照会に対し、懇切なご回答をお寄せ下さった諸大学関係者のお蔭であり、深く感謝申し上げる次第である。

なおアイテムの末尾に付した諸記号は次の諸事項を意味し、後続の該当アイテムへの参照を表わす。

◆……講演内容があらためて出版物記事として活字化されたもの

※……講演会と同時に展示会が開催されたもの

†……展示会内容を冊子化した目録が作製されてあるもの

I 記念講演会

1. 協議会・学会

アダム・スミスの会

ホランダー教授講演会 同会（東大内）於国際文化会館 1976. 10. 26

Some Reactions to “*The Wealth of Nations*” 1776-1816. Samuel Hollander (University of Toronto)

注—レジュメ有り

経済学史学会

○「国富論」200 年記念講演会 於九州大学 1976. 11. 5

アダム・スミスにおける人と物

出口勇蔵（京大名誉教授）◆ p. 45

アダム・スミス——人文学と経済学 内田義彦（専修大教授）◆ p. 48

○全国大会 第40回 於九州大学 1976. 11. 6~7

「国富論」における富裕と安全

小柳公洋（北九州大助教授）〔11. 6〕

アダム・スミスにおける衡平の原理 星野彰男（関東学院大教授）

〔11. 6〕

日本におけるスミス市民社会論史をめぐって 和田重司（中央大教授）〔11. 6〕

トマス・ジェファソンの経済思想とアダム・スミス 白井 厚（慶大教授）〔11. 7〕

特別講演： *The Wealth of Nations*, Origins of Ricardo's Theory of Profits. S. Hollander (University of Toronto) [11. 7]

注—レジュメ有り

シンポジウム：アダム・スミスと

われわれ [11. 7]

〈司会〉河野健二 (京大教授),

小林昇 (立教大教授)

〈問題提起〉

市民社会と小集団——民主主義

の問題 水田 洋 (名大教授)

アダム・スミス体系における農

村と市場 玉野井芳郎 (東大教授)

○関東部会 於成城大学 1976. 5. 22

◆ p. 46

アダム・スミスの傲慢論と力の観

点 星野彰男 (関東学院大教授)

スミス経済学にたいする最近の研

究動向——S. ホランダールの新著を中

心に 岡田純一 (早大教授)

○関西部会 第71回例会 於大阪市立

大学経済学部 1976. 5. 29 ◆ p. 46

J. スチュアート「経済学原理」に

おける市民社会成立史論——A. スミ

スとの関連において 飯塚正朝 (大

市大博士課程)

「道徳感情論」についての一考察

天羽康夫 (高知大助教授)

スミスの「富裕の自然的コース」

についての一試論 関 昶 (神戸学

院大助教授)

○西南部会 第41回例会 於西南学院

大学経済学部 1976. 7. 12~13

「国富論」における富裕と安全

小柳公洋 (北九州大助教授)

経済資料協議会

西部部会研究会 於京都大学経済学

部 1976. 5. 28 ◆ 当書 p. 3 および

p. 13 スミス研究の動向

i 海外における研究動向

水田 洋 (名大教授)

ii 日本における研究動向

杉原四郎 (甲南大教授)

横浜5大学連合学会経済学史部会

「国富論」刊行200年記念シンポジ

ウム 神奈川大学 於神奈川婦人会館

1976. 12. 4

アダム・スミスの思想像〈発題者〉

星野彰男 (関東学院大教授)

* 横浜5大学: 神奈川大学, 関東学院

大学, 横浜商科大学, 横浜市立大学,

横浜国立大学

2. 大 学

東 北

東北大学

「諸国民の富」200年記念展示およ

び研究会 同大学経済学会 1976. 10.

28 ※

Smith and Ricardo: Aspects of
the Nineteenth-Century Legacy.

Samuel Hollander (スミスからリカ

ード——19世紀の遺産 サムエル・

ホランダール〈トロント大教授〉)

注—レジュメ有り

関 東

中央大学

シンポジウム: 国富論200年記念に

寄せて 同大学経済研究所 1976. 11.

24

〈司会〉田村秀夫 (中大教授同所長)

スミスとイギリス・日本 和田重

司 (中大教授)

近代経済学と国富論 沢木 清
(中大教授)
社会主義国における *The Wealth of Nations*. 松川七郎 (中大教授)
慶応義塾大学
○昭和51年度〈後期〉小泉信三記念講座:「国富論」の200年 同大学 1976.
10. 7~11. 25
スミスにおける倫理と経済 大河
内一男 (東大名誉教授) [10. 7] ◆
p. 48
国富論と近代経済学 岡田純一
(早大教授) [10. 14]
日本におけるスミス 杉原四郎
(甲南大教授) [10. 21]
社会思想史上のスミス 水田 洋
(名大教授) [10. 28]
アダム・スミスと慶応義塾 高橋
誠一郎 (慶大名誉教授) [11. 25]
○スミス国富論 200 年記念講演会 同
大学経済学部・経済学会 1976. 12. 2
~1977. 1. 13
アダム・スミスと現代経済理論
福岡正夫 (慶大教授) [12. 2]
アダム・スミスと貨幣・金融 村
井俊雄 (慶大教授) [12. 2]
スミスにおける富裕と進歩について 中村勝巳 (慶大教授) [12. 9]
アメリカ独立とスミス 白井 厚
(慶大教授) [12. 9]
アダム・スミスの賃金論 黒川俊
雄 (慶大教授) [12. 16]
アダム・スミスの自由貿易論と日
本の国際分業論農政 常盤政治 (慶

大教授) [12. 16]
アダム・スミスの財政論 大島通
義 (慶大教授) [1. 13]
スミス分業論と労働疎外論 野地
洋行 (慶大教授) [1. 13]
日本大学
「国富論」刊行 200 年記念展示会お
よび講演会 同大学経済学部 1976.
10. 20 ※
スミスと自由放任とケインズ 早
坂 忠 (東大助教授)
経済学とその周辺 戸田正雄 (日
大教授)
成城大学
アダム・スミス「国富論」出版200年
記念連続講演会 1976. 6. 2~25 ※
アダム・スミスの生涯と業績 上
野 格 (成城大教授) [6. 2]
アダム・スミス経済学の基礎 船
越経三 (神奈川大教授) [6. 16]
アダム・スミスと現代の眼——市
民の論理と階級の論理について 高
島善哉 (関東学院大教授および一橋
大名誉教授)
創価大学
記念講演: 第二学期ガイダンスの際
の行事の一部として 同大学経済学部
1976. 9. 6
アダム・スミスと現代 大野信三
(創価大教授)
アダム・スミス当時のスコットラ
ンドの社会と産業 北 正巳 (創価
大助教授)
和光大学

アダム・スミス「国富論」出版 200
周年記念講演 同大学 1977. 1. 17

アダム・スミスと現代 高島善哉
(関東学院大教授および一橋大名誉
教授)

早稲田大学

サミュエル・ホランドー教授講演会
同大学産業経営研究所 1976. 10. 25

Smith and Ricardo: Aspects
of the Nineteenth-Century Legacy.
Samuel Hollander ◆ p. 45

中 部

南山大学

アダム・スミス「国富論」発刊 200
年記念講演会 同大学経済学部 1976.
11. 1

Adam Smith and the Self-Inter-
est Axiom. Samuel Hollander (ア
ダム・スミスと自利の原理 サムエ
ル・ホランドー <トロント大学教
授>)

注—レジュメ有り

関 西

阪南大学

アダム・スミス祭: 「国富論」発行
200 年記念公開講演会 同大学産業研
究所および図書館 1976. 11. 4~29

「国富論」と現代 水田 洋 (名
大教授) [11. 4] ◆ p. 44

スミスからの道 真実一男 (大市
大教授) [11. 20] ◆ p. 44

スミスと経済学 裕 正夫 (阪南
大教授) [11. 20] ◆ p. 44

グラスゴー大学スミス記念国際シ

ンポジウムに出席して 津島陽子
(阪南大および立命大講師)

関西大学

社会科学の古典「国富論」 杉原
四郎 (甲南大教授)

○アダム・スミス「国富論」刊行 200
年記念講演会 同大学経済学会および
商学会 於同大学二部学舎 1976. 11.
19

○アダム・スミス「国富論」刊行 200
年記念講演および展示会 同大学経済
学部 1976. 11. 19※

アダム・スミスにおける人と物

出口勇蔵 (京大名誉教授) ◆ p. 45
立命館大学

立命館土曜講座: <特集> アダム・
スミス「国富論」刊行 200 周年 同大
学人文科学研究所 於同大学広小路学
舎 1976. 10. 2~23

スミスとその時代 相見志郎 (同
志社大助教授) [〈上記講座第1467回〉
10. 2]

スミスの経済理論 上野俊樹 (立
命大助教授) [〈同第1468回〉 10. 9]

スミスと初期のマルクス 岡崎栄
松 (立命大教授) [〈同第1469回〉
10. 16]

スミス経済学と近代経済学 浜崎
正規 [〈同第1470回〉 10. 23]

II 記念展示会

東 北

東北大学

「諸国民の富」200 年記念展示会

よび研究会 同大学経済学会 於経済学部 附属図書館所蔵スミス関係貴重書17点 1976. 10. 28

関 東

明治学院大学

アダム・スミス展 同大学図書館
Theory of Moral Sentiment 初版
本他11点 1976. 10. 12~15

日本大学

「国富論」刊行200年記念展示会
および講演会 スミスの著作(初版
本・サイン入りなど), 外国語訳, 研究書, 伝記178点 1976. 10. 20~21 †

成城大学

「国富論」刊行200年記念アダム・スミス関係文献展示会 同大学図書館 和書39, 洋書42点 1976. 6. 13~26 †

東京大学

「国富論」刊行200年記念アダム・スミス文庫公開展示会 同大学総合図書館 135点 1976. 6. 18~19 †

関 西

関西大学

アダム・スミス「国富論」刊行200年記念展示会 同大学経済学部 於商学部 108点 1976. 11. 19 †

III 出版物

1 著 作

Smith, Adam: *An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations*. 2 vols. London, W. Strahan and T. Cadell, 1776. 11,

510 p. 587 p.

Facsimile Reproduction: Books-Yushodo (雄松堂書店), 1976.

スミス (Smith, Adam): 国富論 I ~ III, 大河内一男; 大河内暁男; 田添京三; 玉野井芳郎訳. 東京 中央公論社 (I), 586; (II), 516; (III), 568 (10~12, 1976)

2 関係文献

1) 単行書

アニーキン (Аникин, A. B.): アダム・スミスの生涯. 小椋山愛子訳, 松川七郎監修. 東京 勁草書房 12, 1975. 411, 8.

ホランダー (Hollander, Samuel): アダム・スミスの経済学. 大野忠男; 岡田純一; 加藤一夫; 斎藤謹造; 杉山忠平訳, 小林 昇監修. 東京 東洋経済新報社 5, 1976. 503.

注一文献目録を含む 481~497.

星野彰男: アダム・スミスの思想像.

東京 新評論 10, 1976. 262.

経済学史学会編: 「国富論」の成立. 東京 岩波書店 8, 1976. 11, 421, 20.

第1部 思想史的序説——イギリス道徳哲学の系譜 (水田洋), スミスにおける有徳の人について——ルソーとの対比において (木崎喜代治), 「スコットランド啓蒙」における「文明社会史」の成立 (佐々木武), 「道徳感情論」と「国富論」 (田中正司)

第2部 経済学史的序説——「国富論」と重商主義——ウォルポール

体制批判をめぐって(浜林正夫), ジェームズ・ステュアート(和田重司), チュルゴ(津田内匠)

第3部「国富論」の分析——「国富論」における労働価値論の成立——支配労働＝投下労働価値視点の形成と古典派労働価値論の成立(藤塚知義), アダム・スミスの土地所有論(鈴木 亮), 「国富論」における生産的労働と蓄積ファンド(羽島卓也), アダム・スミスの信用論の展開とスコティッシュ・ナショナルリズム——銀行券流通の理解をめぐって(川島信義), 「国富論」における原始蓄積の把握について(小林昇), 「国富論」体系と国家認識(山崎怜)

第4部「国富論」以後——初期マルクスとスミス——「経済学・哲学手稿」第一手稿の分析(遊部久蔵), 近代経済学とスミス——最近の理論史的研究(岡田純一), 近代日本黎明期のスミス——「国富論」の本邦初訳を中心として(杉原四郎)

資料——同時代の書評について(杉山忠平)

注—各英文レジュメ有り

水田 洋: 近代思想の展開. 東京 新評論 9, 1976. 348.

第2章3節: 「国富論」二百年, 98～110.

同 4節: 「国富論」二百年<続>——アダム・スミスの独白——私は誤解されている. 110～

124.

岡田純一: スミス経済学の包括的把握——S.ホランダ―「アダム・スミスの経済学」にちなんで. 東京 日本経済新聞社 5, 1976.

ただし, 玉野井芳郎; 柏崎利之輔編「近代経済学の系譜——その史的再検討」の第1章. p. 7～42.

杉山忠平: アダム・スミス(世界の思想家10). 東京 平凡社 8, 1976. 240.

トッド (Todd, W. B.); カーペンター (Carpenter, K. E.); 大河内暁男: 刊行200年記念ファクシミリ版アダム・スミス著「国富論」の形成とその国際的伝播. 東京 雄松堂書店 10, 1976. 40.

第1章「国富論」の形成——初版から第5版まで(トッド)

第2章 ヨーロッパ大陸におけるスミスと国富論(カーペンター)

第3章 極東へのスミスと「国富論」の導入(大河内暁男)

和光大学経済学部: アダム・スミスとその時代——アダム・スミス「国富論」出版200周年特集号——和光大学経済学部創立十周年記念. 東京 白桃書房 2, 1977. 424.

巻頭言 記念誌に寄せて(梅根悟), 刊行のことば(高橋義臣)

論文 アダム・スミスの「道徳感情論」を中心とする考察——「奉仕主義経済学」提唱のための覚え書<3>(岡野鑑記), アダム・スミス生誕

250年（関末代策），W.C. ミッチェルのアダム・スミス観（岡本典子），アダム・スミスの経済的自由主義に関する考察（松沼 勇），アダム・スミス価値・価格論の再ざんみ——四元的価値論の基礎構築（越村信三郎），アダム・スミス経済学の形成と生産力構造（長谷川義正），アダム・スミスと労働者問題（出水和夫），発券に対するアダム・スミスの考えをめぐって（岡安仁美），アダム・スミスの貿易観と植民地論（飯沼博一），「商人および製造業者」に関するアダム・スミスの論難（桜井 清），アダム・スミスの商業論（岡本喜裕），アダム・スミスの財政思想についての一考察（梅中雅比古），アダム・スミスの大学論について（梅根 悟），スミス神観とマニュファクチュア（水上健造），18世紀のイギリスにおける科学・技術（藤井 清），アダム・スミス時代とその前後の会計動向——M. Chatfield の会計史観を中心に（上野正男），18世紀のイギリスの政治——近代的内閣制度の確立（原田清雄），ハミルトンの公文書にみるアダム・スミスの影響（原 為徳），18世紀のイギリス文学（滝本晴樹）

2) 雑誌

A・スミス「国富論」刊行200年記念（特集）：スミスとマルクスにおける二重の社会像——マルクスのスミス

労働価値説批判にかんする一考察（時永 淑），スミス・アイルランド・歴史主義（松尾太郎），A. スミスの「生産的労働」に関する一考察（平林千牧），スミスの視点とイギリス経済の現状分析（中野 正），スミス「諸国民の富」刊行二百年雑感（中村恒矩），A. スミスのスネル奨学基金給費生推薦状（時永 淑），ナポレオンの「国富論」ノート（長部重康），経済志林（法政大）44(4)，1～217（12，1976）

アダム・スミス「国富論」発刊200年記念“スミス祭”公開講演（特集号）：アダム・スミス祭をふりかえって（渡辺 昇），「国富論」と現代（水田 洋），スミスと経済学（谿正夫），スミスからの道（真実一男），アダム・スミスのフランス旅行物語——「国富論」の生誕まで（津島陽子），アダム・スミス祭を終えて（尼寺義弘），阪南大学産業研究所報（4），1～37（3，1977）

アダム・スミス「国富論」発行200年記念阪南大学図書館・阪南大学産業経済研究所共催「アダム・スミス祭」参加スミス記念（特集）：スミス記念特集に寄せて（谿正夫），アダム・スミス祭開催に当って（渡辺 昇），アダム・スミス祭を企画して（尼寺義弘），アダム・スミス祭によせて（林野滋樹），スミスの生涯〈カーコールディ市主催スミス200年祭行事ポスター〉（坂梨正知；長谷川恵洋

訳), ザ・フィナンシャル・タイム
の「国富論」発行200年祭の特集記
事(坂梨正知;長谷川恵洋訳), アダ
ム・スミスの魅力(津島陽子), 啓蒙
思想におけるアダム・スミス(稲田
菊太郎), アダム・スミス年譜「J.L.
——アダム・スミス伝」大内兵衛,
大内節子訳 岩波書店 昭47より転
載), 近代政治とアダム・スミス(辰
巳浅嗣), アダム・スミスの租税四
原則と税法(吉良 実), スミスの
財政論——「夜警国家」「安価な政府
論」の虚妄(西川清治), スミスか
らマルクスへ——貨幣論の発展(尼
寺義弘), スミスの言語起源論(長
谷川恵洋), アダム・スミス——そ
の時代と思想について(高橋 慧),
18世紀の特質——文学的観点から
(松尾力雄), アダム・スミスの旅
——「国富論」刊行200年記念国際学
会に出席して;付同上シンポジウム
の模様(津島陽子). 阪南大学図書
館タイムス (9), 1~28 (11, 1976)
アダム・スミス「国富論」刊行200年
祭: スミスにおける経済学と社会学
(吉田昇三), 国富論とカソリシズム
(後藤文利), アダム・スミスの分配
論における二元性(西村 貢). 商
経学叢(近畿大) (56), 1~45 (11,
1976)
アダム・スミスの再発見(特集): アダ
ム・スミスの人間観(辻村江太郎),
アダム・スミスとアメリカの独立
(三上隆三). 経済セミナー (255),

26~40 (4, 1976)

出口勇蔵: アダム・スミスにおける人
と物. 経済論集(関大) 26(6), 101
~119 (3, 1977)

藤田幸雄: 「国富論」1776~1976——
アダム・スミスの政治経済学体系に
ついて. 山口経済学雑誌 26(3/4),
151~165 (11, 1976)

ホランダー (Hollander, S.): リカー
ド経済学の遺産——その一面的解釈
への批判. 週刊東洋経済臨時増刊
「近代経済学シリーズ」 (40), 133
~139 (4, 1977)

○1976年10月25日早稲田大学で行わ
れた講演「Smith and Ricardo」
の草稿

伊坂市助: アダム・スミスの魅力(続).
経済系(関東学院大) (102/103),
64~86 (3, 1975)

石井信之: アダム・スミス新研究の出
発点——『国富論』刊行200年. 青山
経済論集 28(4), 105~115(3, 1977)

鎌倉孝夫: 「諸国民の富」における市
民社会論(「国富論」200年特集).
唯物史観 (17), 79~98 (1, 1977)

関西大学経済学会: 関西大学図書館蔵
アダム・スミス関係文献目録. 経済
論集(関大) 26(6), 125~135 (3,
1977)

注—後述目録(p.49)と同一のもの

関西大学経済学会: 「国富論」刊行200
年記念行事をめぐって. 経済論集
(関大) 26(6), 121~124 (3, 1977)
経済学史学会部会報告:

関東部会——アダム・スミスの傲慢論と力の観点(星野彰男), スミス経済学にたいする最近の研究動向——S. ホランダールの新著を中心に(岡田純一)

関西部会——J. スチュアート「経済学原理」における市民社会成立史論——A. スミスとの関連において(飯塚正朝), 「道徳感情論」についての一考察(天羽康夫), スミスの「富裕の自然的コース」についての一試論(関 劭). 経済学史学会年報(14), 84~85, 88~89 (11, 1976)

「国富論」刊行200年記念(特集): 市民社会概念におけるスミスとヘーゲルの差異について(高島善哉), アダム・スミスとアダム・ファーガスン(水田 洋), アダム・スミスにおける力の体系(星野彰男), 「国富論」刊行200周年と学会(伊坂市助). 経済系〈関東学院大〉(110), 1~54 (12, 1976)

「国富論」刊行200年記念(特集): 経済学の始祖(高橋誠一郎), アダム・スミスの中国・インド論(小池基之), いわゆる「国富論草稿」について(羽島卓也), 「国富論」における社会科学的認識の意義について(飯田 鼎), スミス経済学におけるスコラの要素(松浦 保), スミスにおける信用の把握について——信用論的考察(飯田裕康), スミス分業論と初期マルクス——労働分割論と労働疎外論の関連についての考察(野地洋行),

マルクスによるスミス批判の構造——「経済学・哲学草稿」でのスミスとマルクス(山辺知記). 三田学会雑誌 69(6), 1~133 (8, 1976)

「国富論」200年(特集):

論文 スミス経済学の現代的意義(岸本誠二郎), アダム・スミス体系における農村と市場——「国富論」再評価の問題群(玉野井芳郎), アダム・スミスの地代論(大内 力), アダム・スミスの The Agricultural Systems 批判の批判(横山正彦), 「国富論」と道徳哲学の伝統——経済学の独立をめぐる(隅谷三喜男), 石川・嵯峨訳「富国論」の形成——書誌的研究(大河内暁男), 国富論と統計学——経験科学としての計量経済学の観点からみたアダム・スミス(竹内 啓)

対談 私のスミス研究(大河内一男; 隅谷三喜夫; 横山正彦; 大内力)

随想 「国富論」不遍歴(鈴木鴻一郎)

資料 アダム・スミス文庫新収蔵書について(大河内暁男), アダム・スミス文庫公開展示会, Some Reactions to “The Wealth of Nations” 1776-1816 (Samuel Hollander) 経済学論集(東大) 42(4) 1~112 (12, 1976)

「国富論」200年(特集)——混迷する現代社会への指針を求めて:

第1部 〈シンポジウム〉現代経済学者からみたアダム・スミス——わ

れわれはなぜ「国富論」を読むのか
(稲田猷一；岡田純一；塩野谷祐一；
辻村江太郎；正村公宏)

第2部「国富論」と現代経済学
——哲学なき経済学の悲劇——現代
経済学危機論の本質(西山千明)，
スミス研究の新しい傾向——ホラン
ダー，スキナー，リンドグレンの三
研究(田中敏弘)，現代経済学への
スミスの貢献(菱山 泉)，自由貿
易論と自由放任論——「国富論」の
一つの現代的再評価(西村孝夫)

第3部「国富論」と現代社会——
市民社会論と現代産業社会(宮崎犀
一)，「国富論」における分業と価格
機構(岡田純一)，産業発展論と途
上国問題(小林 昇)，経済人像と
現代企業家像(大野忠男)，国家観
と現代国家(杉山忠平)

第4部 アダム・スミスの人と業
績——近代化の闘士，アダム・スミ
ス(船越経三)，日本におけるスミ
ス研究の動向(大森郁夫)

特別鼎談 私たちのスミス研究
(内田義彦；小林 昇；水田 洋)

解説「国富論」体系と現代。
週刊東洋経済 臨時増刊〈近代経済
学シリーズ No. 35〉4～140, 150～
160 (13, 2, 1976)

松浦 保：第3回経済学会会報「報告」。
経済学史学会年報 (14)，14 (11，
1976)

注一上記会議：於シカゴ大学(1976.5。
21～23)会議内容「研究報告」が「国

富論」出版200年に関するものが多
かった旨記述されてある。

三上隆三：アダム・スミスのアメリカ
論——アメリカ植民地の独立をめぐ
って。経済理論(和歌山大) (152)，
1～16 (7, 1976)

三上隆三：アダム・スミスとジョーセ
フ・マッシー。経済理論(和歌山大)
(153)，1～21 (9, 1976)

三上隆三：二百年目の「諸国民の富」。
経済理論(和歌山大) (152)，前葉
写真及び説明文 (7, 1976)

水田 洋：現代経済学とアダム・スミ
ス——「国富論」が問いかけるもの。
週刊エコノミスト 54 (37)，34～46
(17, 8, 1976)

水田 洋：星野彰男著「アダム・スミ
スの思想像」——経済と道徳を結ぶ
新鮮な問題提起〔書評〕。朝日ジャー
ナル 19(7)，60～61 (18, 2, 1977)

水田 洋：国富論200年記念シンポジ
ウム。経済学史学会年報 (14)，13
(11, 1976)

水田 洋：学ぶべき現実批判の思想
——アダム・スミス「国富論」から
200年。朝日ジャーナル 18 (10)，
32～35 (3, 1976)

水田 洋：スミス研究の動向と問題
(小特集：アダム・スミスと現代)。
科学と思想(未来社) (22)，119～
130 (10, 1976)

中谷武雄：アダム・スミスの国家論。
経済論叢(京大) 118(3/4)，83～
108 (10, 1976)

大河内一男：スミスにおける倫理と経済——「小泉信三記念講座講演」。

三田評論 (766), 20~33 (1, 1977)

大内 力：アダム・スミス文庫公開展示会開かれる とき：6月18~19日・総合図書館集会室。図書館の窓15 (8), 85~86 (8, 1976)

齊藤正二：アダム・スミスと社会学。

社会学論叢 (日大) (66), 1~12 (7, 1976)

鈴木喜久夫：アダム・スミスの経済学——久留間鯨造氏の所説によせて (「国富論」200年特集)。唯物史観 (17), 65~78 (1, 1977)

鈴木 亮：アダム・スミスの時代と学問——「国富論」刊行200年によせて。経済 (146), 214~225 (6, 1976)

高木正雄：アダム・スミス「国富論」刊行200年に思う。淡水 (神戸商大) 23, 13~20 (12, 1976)

田中敏弘：サミュエル・ホランドー著，小林 昇監訳「アダム・スミスの経済学」〔書評〕。週刊エコノミスト 54(31), 92~93 (13, 7, 1976)

田中敏弘：政治思想におけるヒュームとスミス——D.フォーブズ氏のヒューム研究によせて。経済学論究 (関西学院大) 30(2), 1~29 (7, 1976)

戸田正夫：国富論200年。経済集志 46 (2), 1~6 (7, 1976)

辻村江太郎：アダム・スミスの経済観，経済セミナー (256), 55~65 (5, 1976)

内田義彦：アダム・スミス——人文学

と経済学。思想 (631), 1~24 (1, 1977)

八幡清文：アダム・スミス研究の現状と問題——「アダム・スミス論集」を中心に。一橋論叢 77(2), 93~99 (2, 1977)

3) 新聞記事

アダム・スミス「国富論」200年 (特集)：復刻される「国富論」初版 (編集部)，米寿迎えた邦訳「国富論」——初訳者・石川暎作，嵯峨正作悪戦苦闘，立派な訳業を残す (大河内暁男)，市民社会の解剖学——スミスの思想体系と「国富論」 (船越経三)，スミス復興——経済と経済学の危機意識反映 (岡田純一)，国富論初版本のこと——昭和初年，かなりの数を輸入 (八木佐吉)。図書新聞 (51年24号)，6 (2, 10, 1976)

箱島信一：国富論への回帰，改めて探る「政治経済学」——英国で出版二百年の記念行事。朝日新聞 (東京版)，8 (9, 4, 1976)

箱島信一：よみがえる「国富論」——出版200年記念，英国各地で行事——混迷の現代に道求め。朝日新聞 (大阪版)，7 (14, 4 1976)

浜村正夫：「国富論」とアダム・スミス——発行200年によせて。赤旗，10 (26, 3, 1976)

早坂 忠：「国富論」二百年に思う——スミスめぐり論議今も——大切にしたい歴史の遠近法。日本経済新聞，

〈第2部〉, 26 (21, 5, 1976)

星野彰男: 和光大学経済学部編著「アダム・スミスとその時代」〔書評〕——総合性と反骨精神を強調 (梅根論文), 明解至極な四元的価値論 (越村論文). 日本読書新聞, 6 (16, 5, 1977)

毎日新聞社: 「生産力理論の展開」を求めて——高島善哉氏に聞く——物を造るだけではなく根本的につかまねば……。同新聞, 夕刊 (東京版), 4 (7, 4, 1976)

宮崎犀一: アダム・スミス——ホランダー著「アダム・スミスの経済学の方法」——特異な作業, 仮説と新しいスミス体系像——古典派政治経済学研究, 明確な現代的刻印を示す. 図書新聞 (51年12号), 3 (3, 7, 1976)

日本経済新聞社: 「アダム・スミスの思想像」星野彰男著——原点に立ち返る〔書評〕. 同新聞 〈第2部〉, 26 (14, 12, 1976)

日本経済新聞社: 「国富論」初の翻訳者. 同新聞, 24 (11, 12, 1976)

岡田純一: スミス「国富論」刊行200年記念学会に出席して——原典へ謙虚な姿勢, 現代意識に支えられ必要な引用, 的確に. 読売新聞, 夕刊, 5 (19, 4, 1976)

大河内一男: 不思議な国のスミス——「国富論」刊行から200年, 現代にも生きる課題, 混迷期迎えて点検の必要. 朝日新聞, 夕刊 (東京版), 5 (31, 1, 1976)

杉山忠平: アダム・スミス「国富論」200年に寄せて——初版復元の研究史的意義. 日本読書新聞, 2 (13, 9, 1976)

杉山忠平: 星野彰男著「アダム・スミスの思想像」——「道徳感情論」を主な対象におき——スミス愛からくる書読みこみがめだつ〔書評〕. 日本読新聞, 6 (17, 1, 1977)

4) 目録

関西大学経済学部: アダム・スミス「国富論」刊行200年記念展示目録.

吹田 同大学同部 11, 1976. 13.

桃山学院大学: 桃山学院大学図書館所蔵アダム・スミス関係文献. 堺 同大学 10, 1976. 22.

日本大学経済学部図書館: 「国富論」刊行200年記念展示目録. 東京 同大学同館 10, 1976. 18.

成城大学図書館: 「国富論」刊行200年記念アダム・スミス関係文献展示目録. 東京 同大学同館 6, 1976. 5.

東京大学経済学部: 「国富論」刊行200年記念アダム・スミス文庫公開展示会目録. 東京 同大学同部 6, 1976. 23.

5) その他

Smith's *Wealth of Nations* 完全復刻ファクシミリ版内容見本に寄せた諸短文——「国富論」ファクシミリ版の刊行をよろこぶ (安藤良雄), 「国富論」200年以降への道 (小林 昇),

一生に「国富論」1巻を(竹内謙二), 今日の隆盛の基盤(田実 涉), 「国富論」こそ平和共存への出発点(永野重雄), アダム・スミスと日本(イアン・ニッシュ), 書誌学的にも格別の意味が……(堀 経夫), 古典の生きづくり(水田 洋), 東京 雄松堂 1976.

〔追補〕

Ⅲ 出版物

2 関係文献

1) 単行書

堀 利貞: 生産力理論の展開を求めて——高島善哉氏——生産力は人間の主体的営みの全体にまたがる. 東京 インタープレス 5, 1977,

ただし, 堀 利貞: 「現代の巨匠——歴史を生きぬく群像」の1章. p. 300~305.

高島善哉; 水田 洋; 和田重司; 田中正司; 星野彰男; 伊坂市助: アダム・スミスと現代. 東京 同文館 6, 1977. 314.

アダム・スミスとわれわれ(水田 洋), 日本におけるスミス市民社会論文をめぐって(和田重司), 復活への序曲(水田 洋), 「国富論」が問いかけるもの(水田 洋), スコットランド啓蒙とアダム・スミス(水田 洋), スミスとファースン(水田 洋), 「道徳感情論」の思想と経済学(田中正司), スミスにおける力の体系(星野彰男), 市民

社会概念におけるスミスとヘーゲル(高島善哉), アダム・スミスの魅力(伊坂市助), 「国富論」刊行200周年と学会(伊坂市助), アダム・スミスの歴史的貢献(R. D. コリソン・ブラック; 水田 洋訳)

2) 雑誌

見野貞夫: 「諸国民の富」発刊二百年記念から. 山口経済学雑誌 26 (5/6), 117~173 (3, 1977)

須藤壬章: 「国富論」刊行200年とグラスゴー版「アダム・スミス全集」. 英語青年 123 (5), 227 (8, 1977)

〔後記〕

本稿は原則として昭和52年3月1日を期限として各項目の情報を収集編成したものであるが, 原稿作成後知りえたものとして, ミーク氏の来日に触れておきたい.

ミーク氏(Meek, Ronald L. <レスター大学教授>)は日本学術振興会の招きで3月下旬来日, 4月下旬まで東京, 名古屋, 京都, 金沢, 福岡, 熊本, 小樽などにおいて講演ならびに当地のアダム・スミス研究者(諸大学研究者, 経済学史学会およびアダム・スミスの会などの諸会員)と討論を行う予定であり, その全容を知るには至らないが, 今回の来日は明らかに「国富論」刊行200年と関連をもち, 演題の中には「スミスとマルクス」「新たに見出されたグラスゴー講義について」など, スミスを直接講じるものが含まれていると

きく。

終りに、本年中に出版予定の情報を
えた次の2点を紹介しておく。

1 アダム・スミスの会：本邦アダ

ム・スミス文献。増補新版。

2 藤田幸雄：アダム・スミス論集
フタバ書房。

〈新着〉

国富論200年記念アダム・スミス研究論文集

200 Jahre Adam Smith' "Reichtum der Nation". Internationales Kolloquium vom 30.9. bis 1.10.1975 in Halle (DDR). Protokoll (Referate, Diskussionsbeiträge, Thesen). Hrsg. von P. Thal. 285 S. 1976 (Topos, Liechtenstein) Ln ¥12,800

Thal, P. (Hrsg.), Adam Smith gestern und heute. 200 Jahre "Reichtum der Nationen", Mitwirkung von V. S. Afanasev, A. V. Anikin, G. Kohlmeier, H. Lehmann u. a. 232 S. 1976 (Topos, Liechtenstein) Ln. 9,600

The Glasgow Edition of the Works and Correspondence of Adam Smith. 6 vols. and 2 Additional vols.

〈既刊〉

Essays on Adam Smith. Ed. A. S. Skinner & T. Wilson. (Oxford U. P.) ¥10,200

Vol. 1: The Theory of Moral Sentiments. 10,200

Vol. 2: An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations. 17,000

〈近刊〉

ミック著 スミス、マルクス、その後の経済学

Meek, R., Smith, Marx and After. ca. 200 pp. 1977 (Chapman & Hall) hard ¥3,800

日本販売総代理店

東京都千代田区神田神保町2の2

極東書店

振替東京4-100009番 電話03(265)7531